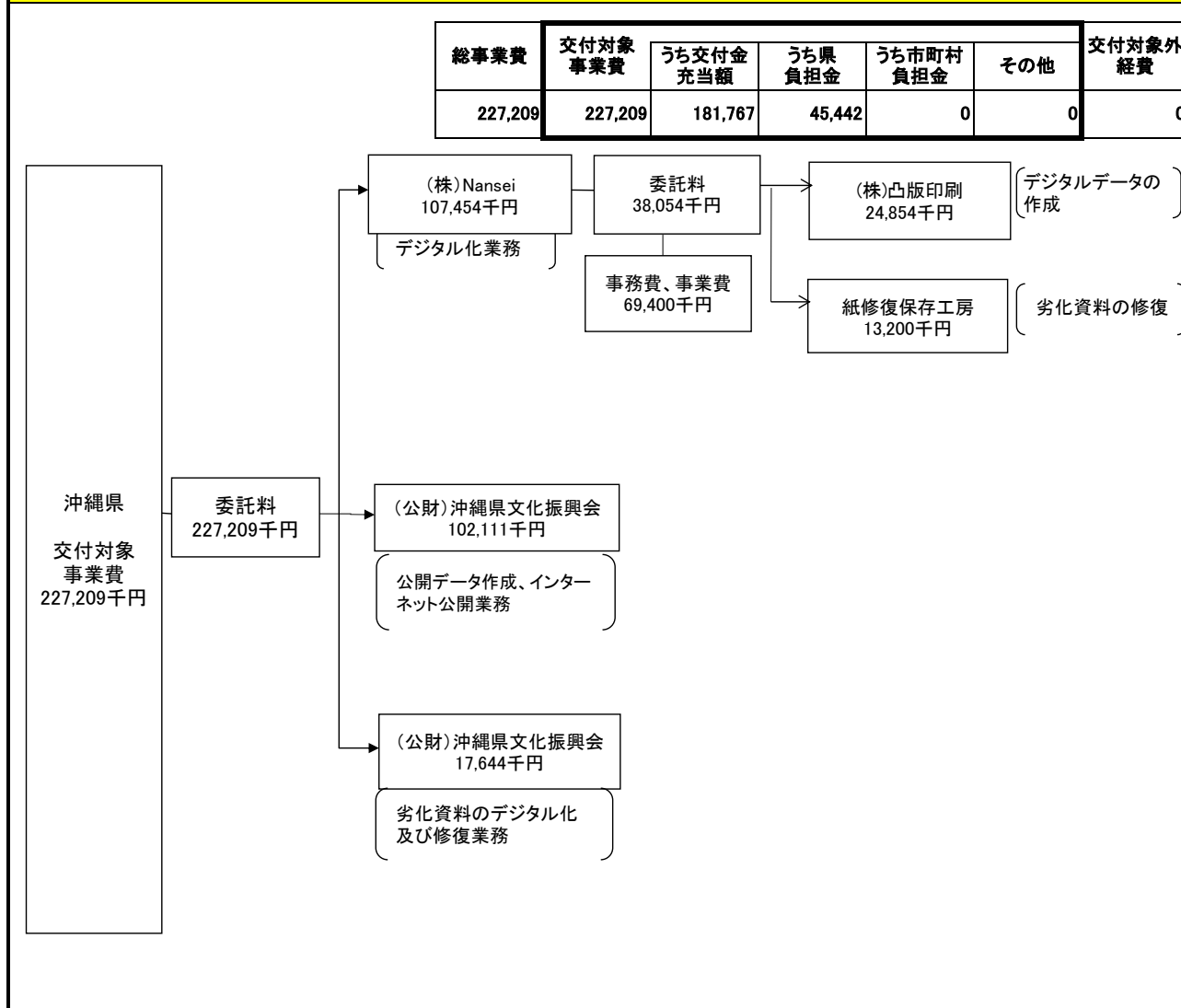


令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2	琉球政府文書デジタル・アーカイブズ推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	総務部総務私学課	事業実施(予定)年度	H25 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖繩の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	県民等が琉球政府文書に対する理解を深めるため、琉球政府の紙文書・資料(劣化の激しい資料は、デジタル化の前に修復)をデジタル化し、ホームページで公開する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和 年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	216,437		216,437		225,178
		(b)予算現額	216,437		225,016		227,266
		(c)増減額(b-a)	0		8,579		2,088
		(d)前年度繰越額			0		
	A. 計(b+d)		216,437		225,016		227,266
	B. 執行済額		216,150		224,835		227,209
	うち交付金充当額		172,920		179,868		181,767
	C. 次年度繰越額				0		0
	執行率(%) (B/A)		99.9%		99.9%		100.0%
予算の状況の説明		執行率は100%であり、計画的に執行できた。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	デジタル・データの作成	目標	9,000簿冊	11,000簿冊	11,000簿冊	12,000簿冊	
		実績	9,039簿冊	11,016簿冊	11,010簿冊	12,049簿冊	
	個人情報の確認・マスキング	目標	6,000簿冊	22,500簿冊	22,000簿冊	27,236簿冊	
		実績	8,513簿冊	33,031簿冊	34,050簿冊	37,663簿冊	
	インターネット公開	目標	-	17,000簿冊	19,000簿冊	28,272簿冊	
実績			7,031簿冊	18,497簿冊	21,728簿冊		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> デジタル・データの作成は、事業の進捗を定期的に確認し目標値を達成した。 簿冊に含まれる個人情報の確認とマスキング処理について、目標値を達成した。 インターネット公開についても、目標値を達成した。 						
成果目標(指標)及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(〇〇年度)
	①公開したホームページの年間アクセス数	目標		29,000アクセス	33,000アクセス	40,000アクセス	
		実績		41,531アクセス	38,325アクセス	36,555アクセス	
	②琉球政府文書に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する	目標		80%	80%	80%	
		実績		75%	89%	83%	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ①成果目標である年間アクセス数については、実績が36,555アクセスで未達成となっている。令和元年度から2年度にかけて広報活動を行いアクセス数が伸びていたが、令和3年度は事業の最終年度であったことから、広報活動は行わず資料を公開することに力を入れたため目標達成に至らなかった。 ②琉球政府文書に対する理解が深まったか(80%以上)をアンケートで検証し、理解が深まったと回答した者が83%であり、目標を達成した。引き続き、利便性向上やニーズの把握に努める。 						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①資料のデジタル画像の質が悪い場合は公開データに適さない場合もあることから、デジタル画像について、公文書館指定管理者の指示の下、再撮影や撮影要件の調整を行い、適切な状態での保管及び公開を行う必要がある。	①デジタル画像については、利用者の利便性を考慮した画像(解像度、色調や形状等)となるよう事業契約の仕様書に明記するとともに、これまで以上に画像をチェックするなど、公文書館指定管理者と連携して適切な状態での保管・公開を行う必要がある。 ②インターネット掲載資料の資料解説を充実させること等により、引き続き、公開資料の多様な利用を促進する必要がある。
	②インターネットの普及及び新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、遠隔地からの資料閲覧の利便性向上が求められることから、引き続き、多様なニーズに対応するため掲載資料の充実を図る等、非来館型サービスを行う必要がある。	
今後の取り組み方針		
①適切な状態でデジタル画像の保管及び公開を行うため、これまで以上に画像をチェックするなど、県、公文書館指定管理者及び事業受託者間で連携を図る。 ②公開する資料については、資料に関連付けた写真を掲載したり、非来館型サービスを充実させる等、引き続き多様な利用を促進する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・使 途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、業務内容により、一般競争入札や実績、専門性や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ○費目・使途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	3	在米沖縄関係資料収集公開事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	総務部総務私学課	事業実施 (予定)年度	H29 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)			
事業内容	県民等が沖縄戦及び米国統治時代等の沖縄関係資料に対する理解を深めるため、米国国立公文書館に所蔵されている沖縄関係の資料(写真や動画を含む)を収集し、翻訳・整理を行い、県民等の利用に供する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(令和 年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度		
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	27,756		24,263		15,522	
		(b)予算現額	27,756		5,998		10,152	
		(c)増減額(b-a)	0		▲ 18,265		▲ 5,370	
		(d)前年度繰越額			0			
	A. 計(b+d)		27,756		5,998		10,152	
	B. 執行済額		26,716		5,998		10,109	
	うち交付金充当額		21,373		4,798		8,087	
	C. 次年度繰越額				0		0	
	執行率(%) (B/A)		96.3%		100.0%		99.6%	
予算の状況の説明		・県民等が沖縄戦及び米国統治時代等の沖縄関係資料に対する理解を深めるため、米国国立公文書館から写真等資料の収集及びインターネット公開のための目録作成等に要する経費として委託料を計上したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、米国での収集業務を取りやめ、減額補正を行った。 ・業務変更に伴う執行率は99.6%であり、概ね計画的に執行できた。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	対象資料(写真や動画を含む)の収集、翻訳整理の実施	目標	収集、整理する	収集、整理する	収集、整理する	収集、整理する		
		実績	6,314点	6,260点	0点	0点		
	資料公開利用環境(ホームページ)の整備、公開用データ作成(利用制限審査・データ変換)	目標			整備、データ作成する	整備、データ作成する		
		実績			整備、データ作成した	整備、データ作成した		
資料の一部公開	目標			一部公開する	一部公開する			
	実績			公開検証した	公開検証した			
進捗状況説明	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により米国国立公文書館の利用ができなかったため、資料の収集を中止したが、過年度までに収集し、翻訳整理した資料及び公文書館に寄贈された写真等について、個人情報利用制限等の審査を行う等公開用データを作成し、ホームページで公開した。							
成果目標 (指標) 及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (〇〇年度)	
	公開したホームページの年間アクセス件数	目標				241,000アクセス		
		実績				490,229アクセス		
	琉球政府文書に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する	目標					80%	
		実績					78%	
達成状況説明	成果目標であるホームページのアクセス数については、目標値から203%増を達成した。 琉球政府文書に対する理解度については、実績が目標値をわずかに下回り未達成となった。達成できなかった主な理由は、ホームページ上で検索がしにくいとの理由から、得たい情報が得られなかったことにより理解度の低下に繋がったと考えられる。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①利用者ニーズの高い資料を優先的に収集する他、最終的に収集資料を運用することとなる公文書館指定管理者の公開基準に合わせる必要があるため、引続き県、指定管理者及び事業受託者と連携し、取組む必要がある。</p> <p>②令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により米国国立公文書館が利用できなかったことから、収集業務を中止し、過年度までに収集、翻訳整理した資料及び公文書館に寄贈された写真等について公開用データを作成し、ホームページ公開する取組にシフトした。</p> <p>③インターネット公開に際しては、資料のわかりやすい翻訳やその解説の充実及び利用拡大に向けた周知内容に引き続き取り組む必要がある。</p>	<p>①計画どおりに資料が収集できるよう、適宜米国国立公文書館の利用状況や利用環境(貸出申請の制限)の確認を行う等、県、公文書館指定管理者と情報収集・共有を徹底し、事業を推進する必要がある。</p> <p>②公開資料については、多様な利用を促進するため資料閲覧状況や利用者アンケートを参考に分析する等、理解促進に繋がるものとする必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>①公開に向けた写真・動画の収集のため、米国国立公文書館の利用状況や利用環境の確認を行う等、情報収集・共有を徹底し、利用状況に応じた対応策について、引続き県、公文書館指定管理者及び事業受託者との協力体制を構築していく。</p> <p>②資料の公開に関しては、資料閲覧状況及び利用者アンケートを参考に分析する等、利用拡大に繋げるため県民等への効果的な周知内容等の検討とその実施に取り組む。</p>		

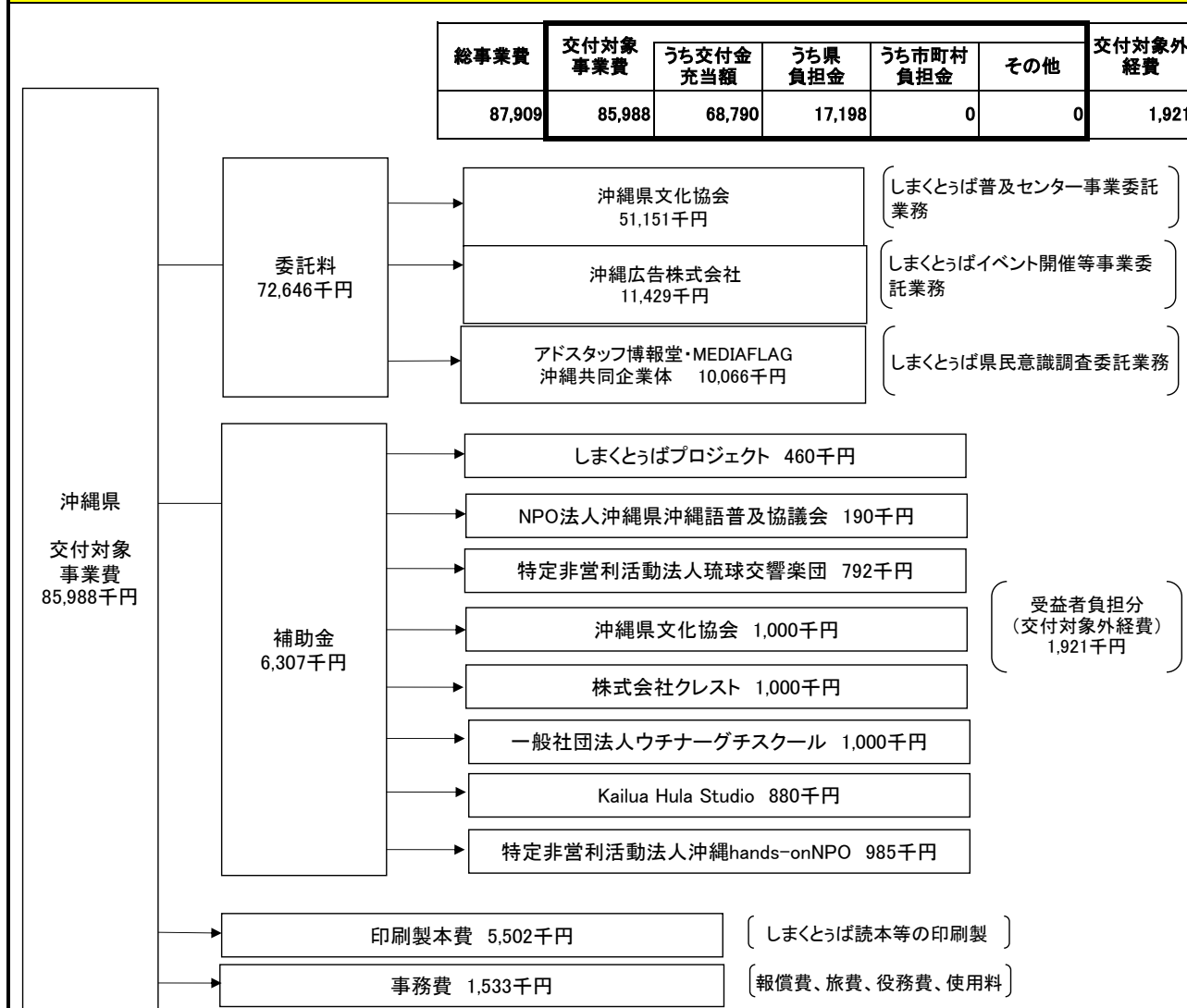
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)							
	総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
	10,109	10,109	8,087	2,022	0	0	0
<pre> graph LR A[沖縄県 交付対象 事業費 10,109千円] -- 委託料 10,109千円 --> B["(公財)沖縄県文化振興会 10,109千円"] B -- "沖縄関係資料の利用制限 審査等" --> C[""] </pre>							
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目			評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○委託事業者は、業務内容により、一般競争入札や実績、専門性や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。					
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。			○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	181	しまくとぅば普及継承事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施 (予定)年度	H25 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖繩の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 普及センターの運営、人材養成講座の実施、民間への補助、読本の配布など、各地への普及促進の取組みを行う。 普及推進専門部会、県民意識調査により取組みの効果検証を行う。 県民大会(功労者表彰)、普及イベント開催等の気運醸成の取組みを行う。 しまくとぅばアーカイブの検討を行う。 						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	99,900		99,776		94,806
		(b)予算現額	99,900		99,776		94,806
		(c)増減額(b-a)	0		0		0
		(d)前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		99,900		99,776		94,806
	B. 執行済額		91,104		87,783		85,988
	うち交付金充当額		72,811		70,226		68,790
	C. 次年度繰越額				0		0
	執行率(%) (B/A)		91.2%		88.0%		90.7%
予算の状況の説明		・執行率は90.7%であり、不用は主に委託料の入札残・執行残のほか、旅費及び補助金の執行残による。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	しまくとぅば人材養成講座の開催:20件	目標	20地域	20地域	20件	20件	
		実績	19地域	22地域	16件	13件	
	民間団体への補助:10件	目標	10件	10件	10件	10件	
実績		11件	14件	7件	8件		
進捗 状況 説明	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴うまん延防止等重点措置によりイベント中止などが相次ぎ、市町村や地域の団体が実施する「しまくとぅば人材養成講座」の開催及び民間団体への補助について、ともに目標値未達となった。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値 (H25年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (〇〇年度)
	・しまくとぅばを挨拶程度以上話せる人の割合	目標	58%	70%	76%	82%	
		実績	58%	56.7%	43.2%	28.6%	
	達成 状況 説明	成果目標である「しまくとぅばを挨拶程度以上話せる人の割合」について、令和3年度しまくとぅば県民意識調査結果は28.6%であり、目標を達成できなかった。新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化として、「友人知人と会う機会が減った」とする回答が74.5%に達した調査結果からも明らかのように、最もしまくとぅばを話す機会が多いと回答のある友人との会う機会の減少が、使用頻度の減少にも影響しているものと思われる。					

推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証 ・内閣府による沖縄振興計画の総点検結果である「沖縄振興の現状と課題」においては、「主な取組の評価(⑥文化関連)」のなかで、「しまくとぅばの保存・普及・継承に向けたソフト交付金によるしまくとぅば普及センターの設置・運営等の取組が進められているものの、しまくとぅばをあいさつ程度以上、話す人の割合に改善が見られないことから、これらの取組については改善・見直しの検討が必要であると考えられる。」との指摘がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大により、対面でのイベント・講義が実施困難になっている。 ・「しまくとぅば県民意識調査」によると、「しまくとぅば」を話せる人の割合について、令和3年度調査結果では過去最低値となった。一方で、しまくとぅばに親しみを感じている人やしまくとぅばは必要であると思う人の割合、しまくとぅばへの理解度は高い割合で推移している。	・しまくとぅば普及センターによる取組については、しまくとぅば講師養成講座開催、同講座で養成された講師の派遣事業及びしまくとぅば検定など、地域に密着・連携した取組に重点化し、それを総括する窓口機能に注力するなどの取組の見直しを行い、県民がしまくとぅばを聞く機会・話す機会の創出に繋げ、しまくとぅばを話す人の割合の向上を図る。
今後の取り組み方針	
・令和3年度に行ったしまくとぅばに関する県民意識調査により、県民がどのような機会にしまくとぅばに触れているのかや、市町村、小・中学校、民間団体等がしまくとぅばについてどのような取組を行っているのか等を把握し、しまくとぅばを聞く機会・話す機会の創出に繋がる取組を令和4年度に検討する新たなしまくとぅば普及推進計画に盛り込み、実施することにより、しまくとぅばを話す人の割合の向上を図る。	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、費用	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費用	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先及び補助事業者については、実績やノウハウなどを勘案した上で選定しており、妥当であった。 ・補助事業については、NPOなどが主な補助先であるが、補助率は8割で2割は自己負担としており負担関係は妥当であると考えられる。 ・委託額や補助額を確認するときには、事業目的達成の観点から、必要な経費だったかなどを検査した結果、適正だったと認められた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	216 「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア				
担当部署名	教育庁生涯学習振興課	事業実施 (予定)年度	R1 ~ R3 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	本県独自の歴史・文化の価値を国際的に発信し、県民のみならず世界のウチナーンチュに「琉球・沖縄の知と心」を継承していくために、沖縄県立図書館郷土資料フロアの企画展示及び移民資料収集・ルーツ調査を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	(a)当初予算額	19,142	-	17,588	-	18,590	
	(b)予算現額	19,142	-	17,588	-	18,590	
	(c)増減額(b-a)	0	-	0	-	0	
	(d)前年度繰越額		-		-		
	A. 計(b+d)	19,142	-	17,588	-	18,590	
	B. 執行済額	14,860	-	16,300	-	17,647	
	うち交付金充当額	11,887	-	13,039	-	14,118	
	C. 次年度繰越額	0	-	0	-	0	
	執行率(%) (B/A)	77.6%	-	92.7%	-	94.9%	
予算の状況	<p>予算の状況の説明</p> <p>沖縄県独自の歴史・文化を継承し、国際的に発信するために、県系移民資料の収集、ルーツ調査の実施等に要する経費として、委託料、報酬等を計上した。執行率は、94.9%であり、新型コロナウイルスの影響等により、主に旅費の執行残が発生したことによるものである。</p>						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	(移民ルーツ調査関連)	目標	-	300件	300件	50件	
	移民ルーツ調査の実施	実績	-	451件	42件	61件	
	(移民ルーツ調査関連)	目標	-	450点	400点	100点	
	移民資料の収集	実績	-	458点	308点	151点	
	(移民ルーツ調査関連)	目標	-	1回	1回	1回	
	移民関連講演会の実施	実績	-	1回	2回	1回	
	(講演会・企画展示関連)	目標	-	18回	42回	36回	
	沖縄の歴史・文化関連郷土資料企画展示の実施	実績	-	40回	40回	49回	
(講演会・企画展示関連)	目標	-	12回	6回	2回		
沖縄の歴史・文化関連講演会の実施	実績	-	4回	4回	2回		
進捗状況説明	<p>・新型コロナウイルスウィルスの影響で海外渡航ができなかったため、移民ルーツ調査はオンライン受付等となり、また移民資料収集先を国内へ変更して実施し、目標を上回った。</p> <p>・講演会・企画展示関連については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休館・利用制限があったが、企画展示は目標を上回った。また、実施した展示や講演会の一部を、HPに掲載及び期間限定でYouTube配信した。</p>						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R2成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (〇〇年度)
	(移民ルーツ調査関連)	目標		80%以上	80%以上	80%以上	
	移民ルーツ調査相談者等を対象に、沖縄への愛着を感じたか(80%以上)等を含め、当該事業の在り方をアンケートにより検証する。	実績		94%	93%	98%	
	(講演会・企画展示関連)	目標		80%以上	80%以上	80%以上	
	講演会参加者、企画展示来訪者を対象に、沖縄の歴史・文化への理解が深まり、沖縄の魅力を発信したいと思ったか(80%以上)等を含め、当該事業の在り方をアンケートにより検証する。	実績		94%	89%	100%	
	達成状況説明	<p>・成果目標である「沖縄への愛着を感じたか」については、移民ルーツ調査相談者等を対象に、98%が肯定し、目標を達成した。</p> <p>・成果目標である「沖縄の歴史・文化への理解が深まり、沖縄の魅力を発信したいと思ったか」については、講演会参加者、企画展示来訪者を対象に、100%が肯定し、目標を達成した。</p>					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・成果目標である移民ルーツ調査相談者等を対象とした「沖縄への愛着を感じたか」のアンケートについて、令和3年度はルーツ調査依頼者、移民関係講演会等参加者が回答者であった。令和4年度についても、オンラインルーツ調査や移民関係講演会の充実を図り、参加者の増加を図る必要がある。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防のため、海外渡航ができず、国内においても制限があったものの、収集先の変更等臨機応変に対応し、事業の充実を図ることが出来た。また、展示や講演会のHPやYouTube配信等で発信した。</p>
今後の取り組み方針	
<p>令和4年度は、第7回世界のウチナーンチュ大会が開催されるため、ルーツ調査・企画展示等の充実を図る。</p>	

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																																									
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費																																			
17,647	17,647	14,118	3,529	0	0	0																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>沖縄県</p> <p>交付対象事業費 17,647千円</p> </td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>委託料 6,980千円</p> </td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>報酬 5,678千円</p> <p>共済費 1,217千円</p> <p>職員手当等 1,222千円</p> </td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>旅費 1,544千円</p> </td> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>事務費 1,006千円</p> </td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>沖縄タイムス社 3,288千円 〔展示、講演会等〕</p> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>Nansei 856千円 〔複製本作製〕</p> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>久永情報マネジメント 946千円 〔マイク複製本作製〕</p> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>(株)アイアム 1,890千円 〔Web製作・翻訳〕</p> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>映像制作 琉EIZO 66千円 〔講演会撮影等〕</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="5" style="text-align: center;"> <p>〔移民ルーツ調査、資料整理等に係る非常勤職員(奉仕員1名、事務補助員2名)報酬、社会保険料、期末手当など〕</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="5" style="text-align: center;"> <p>〔国内移民関係資料収集旅費、ルーツ調査及び資料整理等に係る非常勤職員(奉仕員1名、事務補助員2名)の通勤手当、講演会講師旅費(1名)〕</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="5" style="text-align: center;"> <p>〔報償費、需用費〕</p> </td> <td></td> </tr> </table>							<p>沖縄県</p> <p>交付対象事業費 17,647千円</p>	<p>委託料 6,980千円</p>	<p>報酬 5,678千円</p> <p>共済費 1,217千円</p> <p>職員手当等 1,222千円</p>	<p>旅費 1,544千円</p>	<p>事務費 1,006千円</p>				<p>沖縄タイムス社 3,288千円 〔展示、講演会等〕</p>	<p>Nansei 856千円 〔複製本作製〕</p>	<p>久永情報マネジメント 946千円 〔マイク複製本作製〕</p>	<p>(株)アイアム 1,890千円 〔Web製作・翻訳〕</p>	<p>映像制作 琉EIZO 66千円 〔講演会撮影等〕</p>			<p>〔移民ルーツ調査、資料整理等に係る非常勤職員(奉仕員1名、事務補助員2名)報酬、社会保険料、期末手当など〕</p>							<p>〔国内移民関係資料収集旅費、ルーツ調査及び資料整理等に係る非常勤職員(奉仕員1名、事務補助員2名)の通勤手当、講演会講師旅費(1名)〕</p>							<p>〔報償費、需用費〕</p>					
<p>沖縄県</p> <p>交付対象事業費 17,647千円</p>	<p>委託料 6,980千円</p>	<p>報酬 5,678千円</p> <p>共済費 1,217千円</p> <p>職員手当等 1,222千円</p>	<p>旅費 1,544千円</p>	<p>事務費 1,006千円</p>																																					
	<p>沖縄タイムス社 3,288千円 〔展示、講演会等〕</p>	<p>Nansei 856千円 〔複製本作製〕</p>	<p>久永情報マネジメント 946千円 〔マイク複製本作製〕</p>	<p>(株)アイアム 1,890千円 〔Web製作・翻訳〕</p>	<p>映像制作 琉EIZO 66千円 〔講演会撮影等〕</p>																																				
	<p>〔移民ルーツ調査、資料整理等に係る非常勤職員(奉仕員1名、事務補助員2名)報酬、社会保険料、期末手当など〕</p>																																								
	<p>〔国内移民関係資料収集旅費、ルーツ調査及び資料整理等に係る非常勤職員(奉仕員1名、事務補助員2名)の通勤手当、講演会講師旅費(1名)〕</p>																																								
	<p>〔報償費、需用費〕</p>																																								
資金の流し、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明																																						
資金の流し、点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は、一般競争入札等によって選定したため、妥当であったと考える。</p> <p>○費用、使途については、事業報告書等を検査し、適正であることを確認した。</p>																																						
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。																																							
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。																																							
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。																																							

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	218	組踊等教育普及事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施 (予定)年度	H26 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖繩の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	・本事業は、国指定重要無形文化財である「組踊」とこれに関連する琉球舞踊、琉球古典音楽等について、その教育普及を推進する。次世代に保存・継承することを目的に、県内離島の児童生徒を対象に組踊鑑賞会と離島を含む県内すべての児童生徒を対象に組踊ワークショップを実施するものである。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	37,839		30,037		29,435
		(b)予算現額	37,839		30,037		29,435
		(c)増減額(b-a)	0		0		0
		(d)前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		37,839		30,037		29,435
	B. 執行済額		37,742		8,174		26,588
	うち交付金充当額		30,193		6,539		21,270
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		99.7%		27.2%		90.3%
予算の状況の説明		・執行率は90.3%であり、主に新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公演中止によるものである(児童生徒離島公演において1公演が中止、組踊ワークショップにおいて4回分が中止)					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	組踊等児童生徒離島公演を7回実施する。	目標	5回	6回	7回	7回	
		実績	6回	7回	0回	6回	
	組踊ワークショップを20回実施する。	目標	-	20回	25回	20回	
		実績	-	20回	15回	16回	
進捗状況説明	・組踊公演を離島で6回(八重山特別支援学校、石垣市民会館で3回(八重山商工高校、八重山高校、八重山農林高校)、中野わいわいホールで2回(上原小学校、白浜小学校、西表小学校、船浮小学校)実施した。伊平屋島(野甫小中学校)は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。 ・組踊ワークショップを20回実施予定であったが、16回の実施となった。(4回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (〇〇年度)
	組踊等に関する理解・関心を深めた児童生徒は鑑賞者の80%	目標	-	80%	80%	80%	-
		実績	-	84%	84%	90%	-
	達成状況説明	・児童生徒離島公演は、8校1535名(八重山特別支援学校62名、石垣市民会館1349名、西表島124名)が参加。 ・組踊ワークショップは、16校1284名が参加。 ・アンケート調査によると、児童生徒離島公演では、1298名(96%)、組踊ワークショップでは、951名(83.9%)の児童生徒が組踊の内容が理解できたと回答している。					

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞校については、年度ごとの募集、選定となるため、各学校の行事計画との兼ね合いから応募校数と鑑賞する児童生徒の総数に変動がある。 低学年の児童においては、普段聞き慣れない言葉（方言等）の理解が難しいようである。 組踊公演とは異なる組踊ワークショップを、学校現場等に周知する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 合同鑑賞会の開催や実施時期の調整などの対策が必要である。また、新型コロナ感染症対策のため、開催校の規模によって、分散公演での実施などの調整が必要である。 低学年の児童でも理解しやすい言葉（方言等）解説書や字幕表現の工夫が必要である。 体験型ワークショップの教育的効果について、学校現場に周知する必要がある。
	今後の取り組み方針	
<p>過去8年間の事業実施において、一定の成果をあげることができた。今後は、当課類似事業や文化振興課実施事業へ以下の内容を共有できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染症対策を踏まえた安全性の高い公演（分散公演）の実施。 低学年児童にも理解しやすい字幕表現の工夫。 体験型ワークショップの教育効果について関係市町村教育委員会や開催校との共有。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
	総事業費	交付対象 事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	交付対象外 経費
	26,588	26,588	21,270	5,318	0	0
<pre> graph LR A[沖縄県 交付対象 事業費 26,588千円] --> B["(委託料) 児童生徒離島公演 17,145千円"] A --> C["(委託料) 組踊ワークショップ 8,818千円"] A --> D[事務費(旅費) 625千円] B --> E["令和3年度「組踊等教育普及事業」共同事業体 【(一社)オキナワステージプラン】 【沖縄伝統組踊「子の会」】"] C --> F[丸正印刷株式会社] E --- G["令和3年度 「組踊等教育普及事業」 にかかる業務委託"] F --- G </pre>						
資金の 使途の 流れ、 点検、 費目 ・ 評価	評価	点検項目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○委託事業者は公募型プロポーザル方式により組織、実績、知識等を勘案した上で選定し、適切な事業が実施された。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			○委託事業者からの実績報告及び、支出の費目、使途を確認し、その内容から予算が適正に執行されていた。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	219	琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施(予定)年度	H24 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	県民等の琉球王国外交文書に対する理解を深めるため、歴代宝案をはじめとする琉球王国外交文書等の編集刊行を進めるとともに、琉球王国関係資料のデジタル化を行い、琉球王国時代の外交文書集「歴代宝案」をウェブサイトで公開する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R4 年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	(a)当初予算額	58,648		57,860		56,700	
	(b)予算現額	58,648		57,860		56,700	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		0	
	(d)前年度繰越額	0	1,827	0			
	A. 計(b+d)	58,648	1,827	57,860		56,700	
	B. 執行済額	49,194	1,827	50,416		49,998	
	うち交付金充当額	39,355	1,461	40,333		39,999	
	C. 次年度繰越額	1,827	0	0		0	
	執行率(%) (B/A)	83.9%	100.0%	87.1%		88.2%	
予算の状況の説明	・執行率は88.2%であり、主に需用費(印刷製本費)の入札残、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴うオンライン会議開催等による旅費の執行残によるものである。						
活動目標(指標)及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	歴代宝案編集委員会の開催1回、歴代宝案編集委員会作業部会の開催2回		目標 編集委員会1回 作業部会2回	実績 編集委員会1回 作業部会2回	目標 編集委員会1回 作業部会2回	実績 編集委員会1回 作業部会2回	
進捗状況説明	編集委員会および作業部会においては、新型コロナウイルス感染症の流行により、オンライン及び一部対面による開催となった。会議では、主に『歴代宝案概説』の具体的な章立て・コラム案に従って事務局から提案された執筆者案について審議され、候補者を決定することができた。						
成果目標(指標)及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値(H23年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	①開設したウェブサイトへのアクセス件数	目標				1,760件	5280件
		実績				4,424件	
	②閲覧者のうち、琉球王国外交文書(「歴代宝案」等)に対する理解が深まったか(80%)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する	目標				80%	
		実績				87.5%	
	【R4 成果目標】 琉球王国交流史関係の企画展、講座等参加者数	目標					200人
		実績					
	【R4 成果目標】 琉球王国交流史に関するウェブ教材ダウンロード数	目標					44件
		実績					
	【R3以前の成果目標】歴代宝案の刊行2冊	目標	-	2冊	3冊	-	-
実績		-	2冊	6冊	-	-	
【R3以前の成果目標】中琉歴史関係档案の刊行3冊	目標	-	3冊	3冊	-	-	
	実績	-	3冊	3冊	-	-	
【R3以前の成果目標】琉球王国関係資料のデジタル化	目標	-	870枚	500枚	-	-	
	実績	-	5,443枚	751枚	-	-	
達成状況説明	①琉球王国交流史料デジタルアーカイブのウェブサイトへのアクセス数が、令和3年12月14日の開設日から令和4年3月31日までの3ヶ月半の間に4,424件に達し、目標を達成することができた。 ②本デジタルアーカイブによって琉球王国交流史に関する理解が深まったか(80%)をアンケートで検証したところ、理解が深まったと回答した割合が87.5%となり、目標を達成した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)	
取組の検証	①アクセス数の更なる増加を図る必要がある。	①アクセス数増加のため、ウェブサイトの広報普及をさらに進める必要がある。	
	②琉球王国交流史料の公開を通して、より多くの県民・利用者が沖縄の歴史文化への理解を深めることができるデジタルアーカイブを維持することが課題である。	②魅力あるデジタルアーカイブを維持するため、公開資料の追加など新たなコンテンツの開発等に取り組む必要がある。	
今後の取り組み方針			
①琉球王国交流史料デジタルアーカイブの広報普及のための企画展示やパンフレットの配布、教員向けの研修などを実施する。 ②新たに公開する資料の選定およびデジタル化の推進、デジタルアーカイブの拡充を通して、利用者の琉球王国交流史料についての理解度を深めるためのコンテンツ作りなどの工夫を図る。			

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
50,213	49,998	39,999	9,999	0	0	215

交付対象事業費 49,998千円	報酬費 20,305千円	→	会計任用職員8名 20,305千円 〔 歴代宝案編集委員に係る報酬 交付対象外経費 205千円 〕
	職員手当等 4,167千円	→	会計任用職員8名 4,167千円
	共済費 3,858千円	→	会計任用職員8名 3,858千円 〔 会計任用職員に係る社会保険料及び雇用保険料 〕
	報償費 531千円	→	歴代宝案編集協会議 135千円 ベッテルハイム日記編集協会議 302千円 デジタルアーカイブコラム原稿執筆料 75千円 デジタルアーカイブミニシンポジウム講師謝礼金 19千円 〔 ・歴代宝案編集協会議等に係る謝礼金 ・ベッテルハイム日記日本語訳編集協会議謝礼金 ・「琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ」 コラム原稿執筆料 ・アーカイブミニシンポジウム講師謝礼金 〕
	旅費 738千円	→	職員旅費 (県内) 3千円、 会計任用職員通勤手当等 724千円 編集協会議構成員等旅費 (県内) 11千円 〔 ・会計任用職員通勤手当通勤手当、県内出張旅費 ・歴代宝案、ベッテルハイム日記編集協会議旅費 〕
	需用費 9,516千円	→	消耗品費 346千円 印刷製本費 9,170千円 〔 (有) ドリーム印刷 3,415千円 (株) 東洋企画印刷 1,309千円 (株) 近代美術 4,180千円 (株) F.T.K印刷 145千円 (株) 東洋企画印刷 121千円 〕 〔 『歴代宝案 訳注本第15冊』『歴代宝案編集参考資料23『歴代宝案』訳注本第15冊語注一覧表』『沖縄県史 資料編26 ベッテルハイム日誌および公式書簡 Part. I (1845-1851)』『つかってみよう!ふれてみよう!琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ』琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ普及用ポスター 〕
	役務費 1,655千円	→	(株) 光文堂ロジスティック 918千円 日本郵便株式会社 376千円 (株) モバイル・プランニング 81千円 (株) 善林堂 247千円 沖縄銀行 33千円 〔 『歴代宝案』等刊行物の配送、料金後納郵便、インターネット接続料、レターバック購入、委託料外国送金手数料 〕
	委託料 7,826千円	→	(株) 東洋企画印刷 495千円 中国第一歴史档案館 3,627千円 池谷望子 253千円、内田 晶子 246千円 承志 343千円 (株) 国建システム 2,862千円 〔 歴代宝案訳注本第8冊デジタル化、『中琉歴史関係档案』編集刊行、『歴代宝案』第2冊校訂本(活字本)校閲、『清代琉球国王表奏文書選録』満文翻訳校閲、歴代宝案及び近代沖縄新聞に関するデジタルアーカイブ構築・保守 〕
	使用料及び賃借料 1,402千円	→	(株) 沖縄エジソン 1,402千円 〔 パソコンリース代金 〕

資金の流し、点検、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、点検、費目・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は企画競争、業務の特殊性・専門性・実績等を勘案し選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、業務報告書等を検査し、事業目的に即して適正に執行したことを確認した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

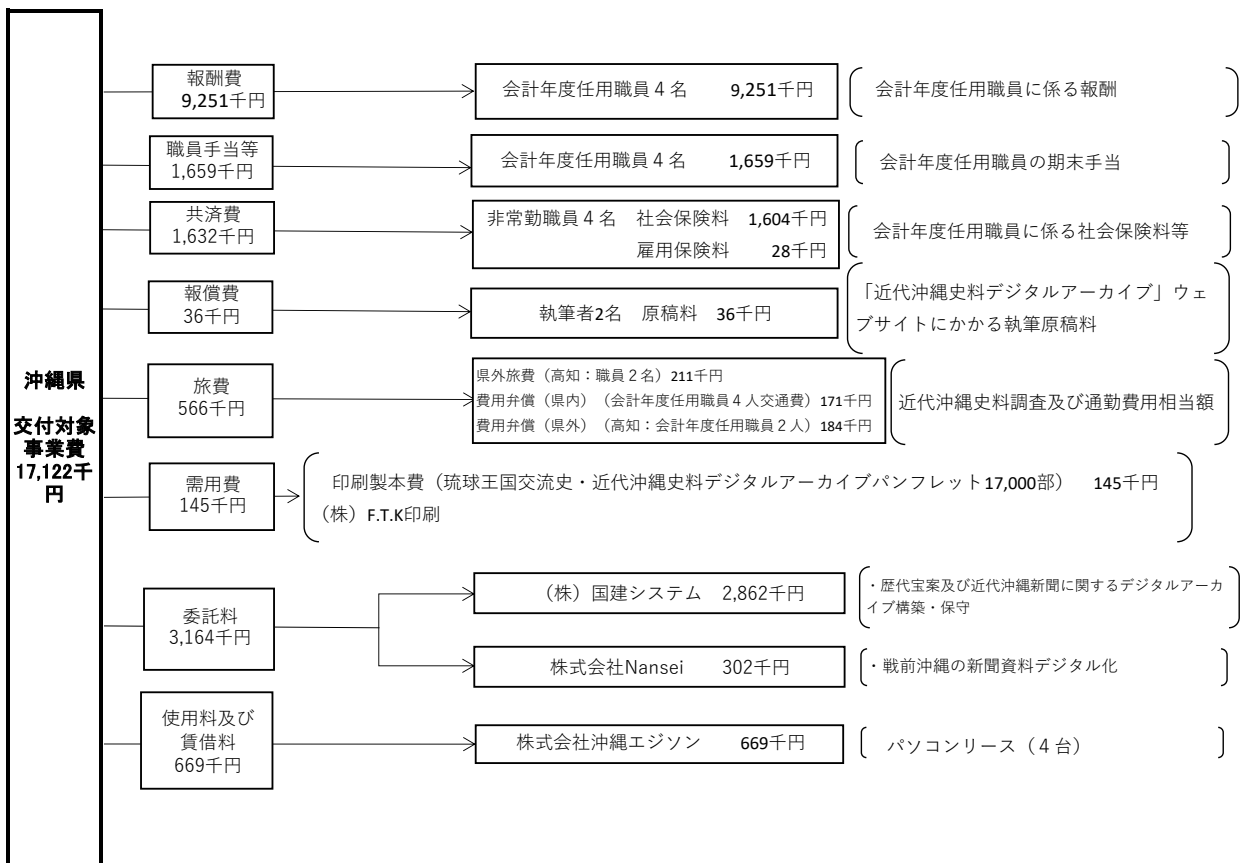
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	220	近代沖縄史料デジタル化事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	教育庁文化財課	事業実施 (予定)年度	H28 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	県民の近代沖縄に対する理解を深めるため、戦前沖縄の新聞を中心に近代沖縄史料の収集やデジタル化を行いインターネット公開する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R4 年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	42,804		20,480		20,067
		(b)予算現額	42,804		20,480		20,067
		(c)増減額(b-a)	0		0		0
		(d)前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		42,804		20,480		20,067
	B. 執行済額		36,387		16,888		17,122
	うち交付金充当額		29,109		13,510		13,698
	C. 次年度繰越額				0		0
	執行率(%) (B/A)		85.0%		82.5%		85.3%
予算の状況の説明		・執行率は85.3%であり、主に、新型コロナウイルス感染症蔓延にともなう資料調査の未実施等による旅費の執行残が発生したことによるものである					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	戦前沖縄の新聞を中心とする近代沖縄史料に関するウェブサイトの制作と公開を行う。		目標				12月公開
		実績				12月14日公開	
進捗 状 況 説 明	・ウェブサイトを作成し、見出しデータ25万件を公開、目標を達成した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (R4年度)
	①開設したウェブサイトへのアクセス件数	目標				1,760件/4ヶ月	—
		実績				4,424件/4ヶ月	—
	②閲覧者について、近代沖縄に対する理解が深まったとする割合	目標				80%	—
		実績				87.5%	—
	【R4成果目標】 紙面の著作権処理	目標					約5,000面
【R4成果目標】 教材のダウンロード数	目標					23回	
達 成 状 況 説 明	・12月14日にウェブサイトを開示したところ、3月までの4ヶ月間のアクセス数が4,424件となり、目的を達成することができた。 ・ウェブサイト上で近代沖縄に関する説明やコラムを設け、近代沖縄に関する理解が深まったかアンケートをとったところ、理解が深まったと回答した者が87.5%となり、目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	①著作権の保護期間内にある記事や作品がある。 ②ウェブ公開により不名誉な重大事件・事故などに記載された個人情報 が、不特定多数にさらされることとなり、関係者の不利益が想定される。 ③ウェブサイトの活用（年間アクセス数）を維持する必要がある。	①新聞画像のインターネット公開に向け、著作権者のリストアップおよび著作権処理を行う必要がある。 ②不名誉な事件・事故等の個人情報のマスキングを行う必要がある。 ③ウェブコンテンツの充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
①著作者不明の著作物の使用について、著作権者への連絡や文化庁長官裁定制度への申請を行う。 ②記事内容を確認し、不名誉な事件・事故等の個人情報をマスキングした画像データを作成する。 ③沖縄近代史にかかるコラムや教材、公開資料を充実させる。 ④データ量が多いため、令和4年度以降も人員の確保に努め作業を進める。		

資金の流れ
 （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
17,122	17,122	13,698	3,424	0	0	0



資金の流し、費用の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は企画競争入札(1件)および随意契約(1件)で選定した。業務の特殊性・専門性の高さおよび委託金額もふまえ、各々妥当であったと考えている。 ○費目・使途については、事業目的に即しており、額についても支出などに関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

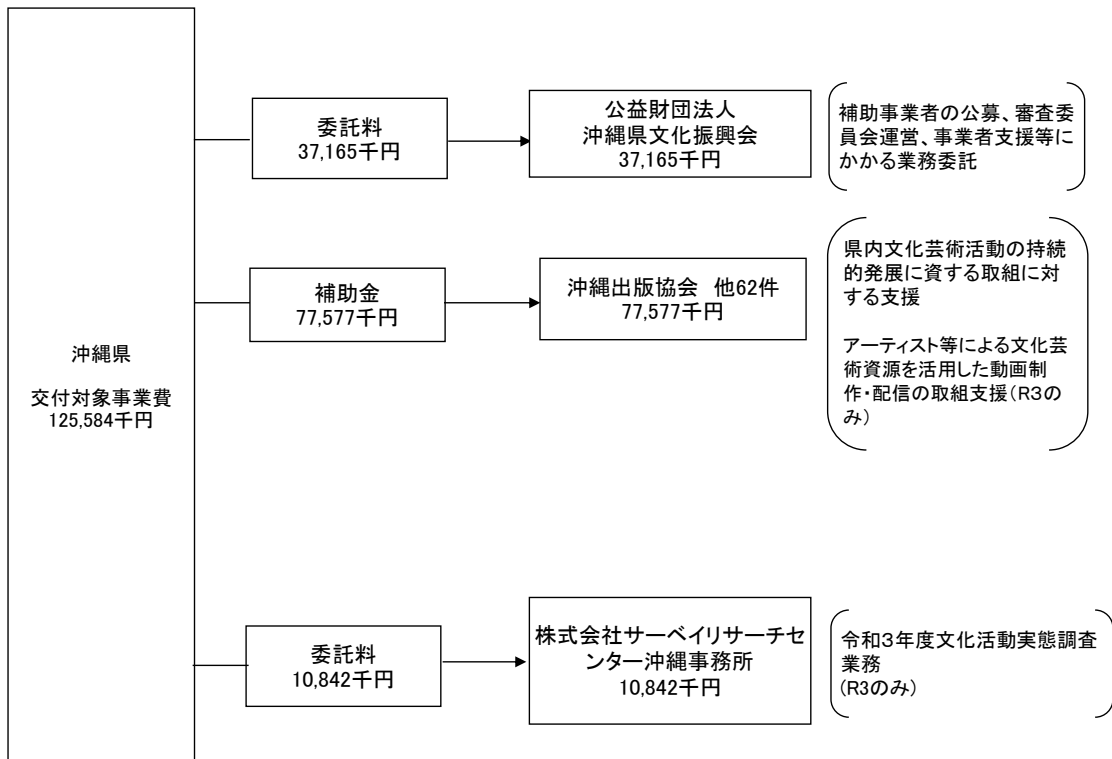
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	182	沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ 第3章-1-(5)-ア			
担当部課名	文化観光スポーツ部文化振興課	事業実施(予定)年度	H29 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化活動を支える基盤の形成 文化資源を活用したまちづくり		
事業内容	<p>県内の文化芸術活動を支える環境の形成を推進し、本県の多様で豊かな文化芸術活動の持続的発展を図る。本県の多様で豊かな地域の伝統芸能や芸術文化といった文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図るため、県内文化関係団体を対象に、文化芸術に関する取組を公募・採択し、支援する。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急支援を行うため、事業の運用を一部変更し、活動を自粛せざるを得ないアーティスト等が制作した作品を配信する機会を創出することで、その活動を支援するとともに県民が文化芸術に触れられる機会を提供する。加えて、本事業の取組による効果のほか、新型コロナウイルス感染症の影響等による本県の文化芸術活動に係る環境の変化を的確に把握し、今後の取組に活かすため、文化活動実態調査を実施する。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和 年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	106,500		85,983		81,683
		(b)予算現額	106,500		161,950		132,575
		(c)増減額(b-a)	0		75,967		50,892
		(d)前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		106,500		161,950		132,575
	B. 執行済額		99,972		145,287		125,584
	うち交付金充当額		79,978		116,230		100,467
	C. 次年度繰越額				0		0
	執行率(%) (B/A)		93.9%		89.7%		94.7%
予算の状況の説明		・予算額は旅費、委託料、補助金を計上。 ・執行率は94.7%であり、概ね計画どおりに執行できた。不要理由は旅費、委託料、補助金の執行残によるものであり、補助金部分の5,581千円が主である。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	県内文化芸術活動の補助件数		目標	18件	19件	19件	27件 30件(補正分)
		実績	19件	21件	89件	63件	
進捗状況説明		・県内文化関係団体を対象に、公募の上、①文化関係団体の運営上の課題解決の取組17件、②文化芸術の普及及び魅力発信の取組7件、③文化資源を活用した地域活力創出の取組3件の合計27件を採択した。 ・また、令和3年度に限り、アーティスト等による文化芸術資源を活用した動画制作・配信の取組36件を採択した。 ・採択された取組について、補助を行うとともに(公財)沖縄県文化振興会における文化の専門人材によるハンズオン支援を行った。					
成果目標(指標)及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(〇〇年度)
	本事業により文化芸術活動数が前年度より増加した団体の割合	目標		37.5%	37.5%	37.5%	
		実績		41.2%	33.3%	50.0%	
	本事業により文化芸術活動の享受者を前年度より増加させた団体の割合	目標		37.5%	37.5%	37.5%	
		実績		23.5%	33.3%	50.0%	
	本事業により文化芸術と他分野の連携活動が前年度より増加した割合	目標		25.0%	25.0%	25.0%	
		実績		41.1%	33.3%	83.0%	
アーティスト等による文化芸術資源を活用した動画の視聴回数(PV数)	目標				5,000PV		
	実績				54,227PV		
達成状況説明		令和3年度に採択された13団体中、新規採択7団体を除く6団体を母数とする。文化芸術活動数が前年度より増加した団体が3団体、文化芸術活動による享受者数が前年度より増加した団体が3団体、文化芸術活動と他分野が連携した活動数が前年度より増加した団体は5団体となり目標を達成した。また、WEBコンテンツを作成し、文化芸術活動に関する動画作品45本を掲載・発信した。動画の視聴回数は合計54,227回となり目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>感染症拡大防止のため、人の集まるイベントの自粛、海外渡航の自粛、国内での移動の自粛等が余儀なくされている。そのため、本補助事業の中で実施するイベントや、視察、県外でのイベント等の開催が危ぶまれる状況となっている。</p>	<p>申請された事業内容が左記のような環境下において実現可能性が高いか検討する必要がある。また、採択された事業においても、進捗等を確認し、事業の円滑な実施につながるよう慎重に見守る必要がある。</p> <p>さらに、左記のような環境下においても文化芸術活動が停滞しないよう、文化芸術活動の持続的発展を図る必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>上記のような環境下においても文化芸術活動が停滞しないよう、進捗等を確認し、事業の円滑な実施につながるよう補助事業者に対するハンズオン支援を行うとともに、文化芸術資源を活用する新たな取組の創出に向けた広報・相談、文化芸術の振興に関する調査及びプログラムを構築することにより、県民が気軽に文化芸術に親しめる環境を創出し、文化芸術活動に活動の場を提供する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
125,584	125,584	100,467	25,117	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公益財団法人沖縄県文化振興会は、他の文化関係機関との連携も視野にいれて県の文化行政施策を実行できる唯一の団体であり、選定は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受益者負担については交付要綱で補助率1年目9/10、2年目8/10、3年目7/10と定めており、妥当と判断している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業を円滑に遂行するために必要な経費であったかを支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	19	沖縄・奄美連携交流促進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ			
担当部課名	企画部地域・離島課	事業実施(予定)年度	H28 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化の発信・交流		
事業内容	沖縄-奄美群島間において、両地域の交流を更に促進し、世界自然遺産登録の候補地として一体的に評価されていることを契機とした、両地域間の移動しやすい環境を構築するため、航空路4路線及び航路8路線の運賃低減を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】			R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度
	予算の状況	(a)当初予算額	98,786		85,562		78,359
		(b)予算現額	98,786		85,562		52,918
		(c)増減額(b-a)	0		0		▲ 25,441
		(d)前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	98,786		85,562		52,918
	B. 執行済額		73,437		34,964		40,367
	うち交付金充当額		58,750		27,971		32,293
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		74.3%		40.9%		76.3%
予算の状況の説明		コロナ禍における移動自粛の影響による旅客需要の低迷のため、減額補正を行った。執行率は76.3%であり、運賃低減の実績に応じて支出する負担金の実績確定に伴う不用額が発生したことによるものである。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	運賃を低減した路線における利用者数 航空路 19,000人	目標	30,000人	30,500人	30,500人	19,000人	
		実績	20,496人	21,396人	10,259人	14,668人	
	運賃を低減した路線における利用者数 航路 51,000人	目標	70,000人	70,400人	70,400人	51,000人	
実績		55,362人	52,177人	17,050人	23,579人		
進捗状況説明	・航空路は那覇と奄美群島を結ぶ4路線、航路においては那覇(本部)から奄美群島を結ぶ8航路で事業を実施し運賃低減を実現した。 ・令和3年度は、コロナ禍による移動自粛の影響により、低減した運賃の利用者数は、航空路14,668人(対目標77.2%)、航路23,579人(対目標46.2%)と目標を達成することができなかった。						
成果目標(指標)及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値(H26年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(〇〇年度)
	両地域間を旅行(移動)したすべての旅客者数(住民を含めた交流人口) 航空路及び航路 141,800人	目標	98,623人	135,400人	138,600人	141,800人	
		実績	-	136,350人	57,709人	73,385人	
	達成状況説明	・航空路及び航路において、住民を含めた両地域間を旅行(移動)したすべての旅客者数(交流人口)は、本事業開始後、順調に増加していたものの、令和3年度の実績は、コロナ禍による移動自粛の影響により73,385人となり、目標の141,800人を下回った。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	①令和2年度実態調査では、本事業による運賃低減により利用者の負担軽減、消費拡大、リピーター増加等の効果が確認された。 ②コロナ禍の影響等による旅行者数の減少も踏まえつつ、令和3年7月に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録されたことにより、国内外の関心を集めることが予想される。	①②コロナ禍においても引き続き本事業により沖縄－奄美間の移動しやすい環境を確保するとともに、世界自然遺産登録を契機とした交流を促進するため、関係者との協力体制のもと、本事業を周知する必要がある。
今後の取り組み方針		
①②世界自然遺産登録や沖縄の復帰50周年を新たな契機とし、更なる連携・交流促進を図るため、両地域の自然や観光等にPR等を鹿児島県と連携して実施する。		

資金の流れ
 （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
40,367	40,367	32,293	8,074	0	0	0

沖縄県 交付対象事業費 40,367千円	負担金 40,367千円	航空路事業者 21,792千円	1 琉球エアークommuter株式会社 13,102千円	航空路運賃低減に係る負担金
		2 日本エアークommuter株式会社 8,690千円		
	航路事業者 18,575千円	1 マルエーフェリー株式会社 9,470千円	航路運賃低減に係る負担金	
		2 マリックスライン株式会社 9,105千円		

資金の流し、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○負担金について、事業者に対し、運賃低減に係る減収分を適正に交付した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

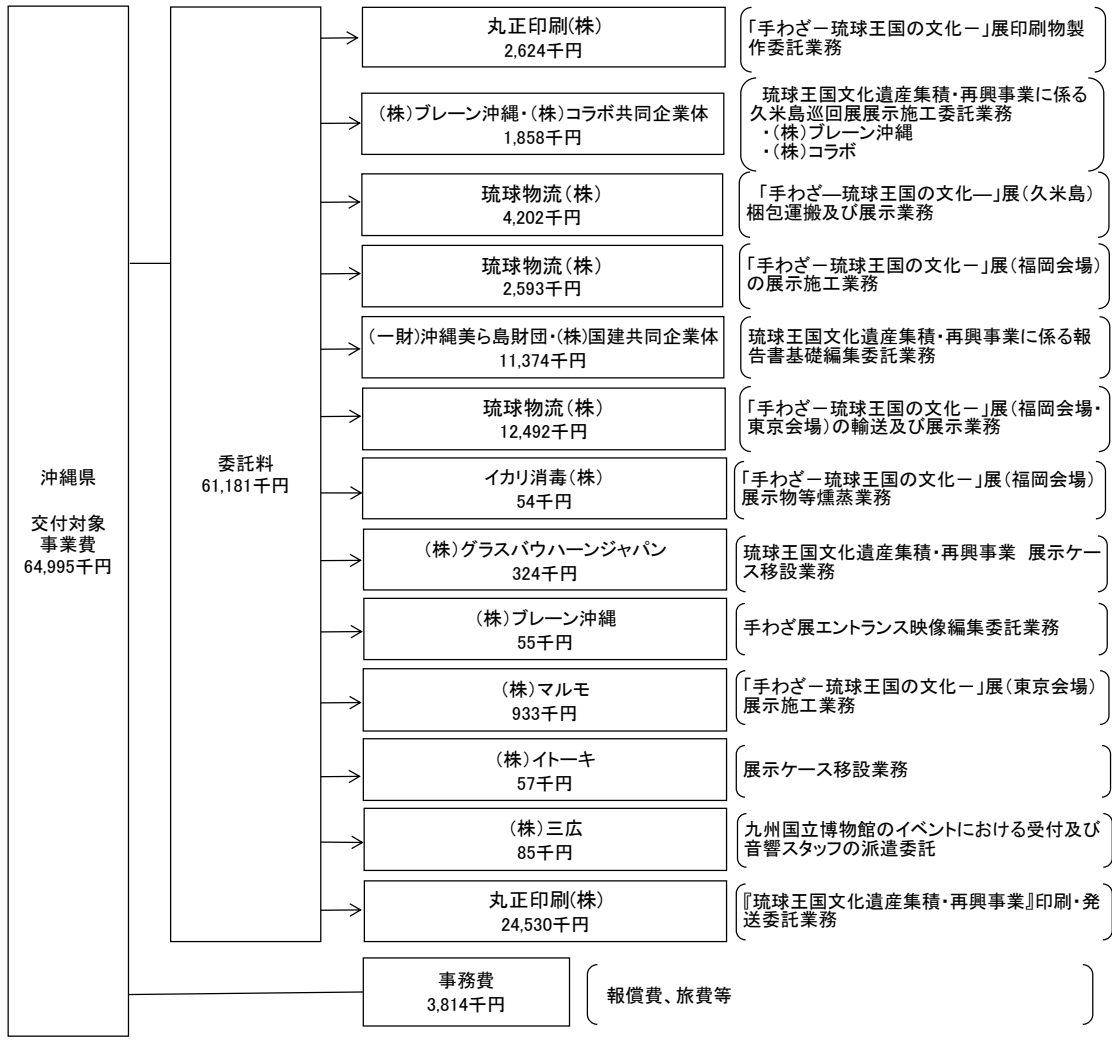
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	183 琉球王国文化遺産集積・再興事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア 第3章-1-(4)-エ				
担当部署名	文化観光スポーツ部文化振興課 (博物館・美術館)	事業実施(予定)年度	H27 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり、文化の発信・交流 Ⅲ-3-(2)		
事業内容	県民等に琉球王国文化の周知を図るため、琉球王国の崩壊や先の大戦で破壊された文化財の模造復元品(物)と製作過程で得られた手わざ及び知見を、琉球王国文化として、報告会及び展示公開等により発信する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和4年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	(a)当初予算額	93,900		76,983		73,113	
	(b)予算現額	93,900		70,834		73,113	
	(c)増減額(b-a)	0		▲ 6,149		0	
	(d)前年度繰越額	0		0			
	A. 計(b+d)	93,900		70,834		73,113	
	B. 執行済額	91,482		65,589		64,995	
	うち交付金充当額	73,186		52,471		51,996	
	C. 次年度繰越額	0		0		0	
	執行率(%) (B/A)	97.4%		92.6%		88.9%	
予算の状況の説明	*執行率は88.9%であり、主に新型コロナウイルス感染拡大防止の一環として、展示配置や展示内容を見直したため、委託料不用品が生じた。						
活動目標(指標)及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	・R2に完成した模造復元品の報告会	目標	報告会開催 1回	報告会開催 3回	報告会開催 3回	報告会の開催 3回	
		実績	報告会開催 1回	報告会開催 3回	報告会開催 3回	報告会の開催 3回	
	・H28~R2に完成した模造復元品及び復元製作過程で得られた琉球王国時代の精緻な手わざに関する知見と美意識を発信する展示会の開催	目標	—	展示会の開催	展示会の開催	展示会の開催	
		実績	—	展示会を開催した	展示会を開催した	展示会を開催した	
	・H28~R2に完成した模造復元品の製作報告書の作成	目標	—	—	—	8分野の刊行	
実績		—	—	—	8分野を刊行した		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 報告会を3回開催し、目標を達成した。 展示会は、県内離島1カ所と県外2カ所の3会場で開催した。 報告書は、琉球王国を代表する8分野の事業報告書(6巻)を刊行した。 						
成果目標(指標)及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(〇〇年度)
	展示会来場者数	目標	—	来場者数 3,500人	来場者数 2,150人	来場者数 36,000人	—
		実績	—	来場者数 4,551人	来場者数 10,315人	来場者数 51,276人	—
	来場者の琉球王国文化への理解度	目標	—	—	—	80%	—
		実績	—	—	—	96%	—
	来場者の展示会の満足度	目標	—	—	—	80%	—
		実績	—	—	—	96%	—
報告書作成	目標	—	—	—	8分野	—	
	実績	—	—	—	8分野	—	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 模造復元した資料を活用した展示会「手わざ」展を東京国立博物館・九州国立博物館・久米島博物館で開催した。また製作工程で得られた知見を発表する報告会やシンポジウムなどを実施した。いずれも新型コロナウイルス感染対策のため人数制限等を行った中での実施だったが、好評により、目標を超える来場者や理解度・満足度を得ることができた。 本事業で復元した手わざや復元資料について調査研究等も含めた8分野の報告書を刊行した。 						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
<p>取組の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復元資料を展示する「手わざ」展では、模造復元資料を通して琉球王国の文化や復元した手わざ(技術)及びその製作工程を幅広く紹介するための発信方法を工夫する必要がある。 ・復帰50年という節目を迎えるにあたり琉球、沖縄独自の歴史や文化への注目が集まり、さらに首里城火災等により文化財保護や復元への興味関心が高まっている。 ・新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み、展覧会の開催にあたっては県イベント等実施ガイドラインを遵守するなど感染防止対策に万全を期す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模造復元資料を活用した展覧会の開催や調査研究及び復元過程で得られた知見をひろく発信するため研究機関や伝統工芸関係者、職人などと連携し効果的な取り組みを行う必要がある。 ・琉球王国文化の手わざの復元に向けて継続した調査研究を行う必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の社会情勢を受け、観覧者が安心して資料を閲覧する環境づくりに継続して取り組む必要がある。
今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・琉球王国文化の理解の向上、事業成果の活用促進のため、模造復元資料の展覧会等や製作工程で得られた知見等を発表する報告会等を県内外で開催することに加え、ウェブ配信や広報メディアを活用した効果的な発信を行う。 ・琉球王国文化を体系的に理解し効果的に発信するため、県内外に散在する文化財を継続して調査する。 	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
64,995	64,995	51,996	12,999	0	0	0



資金の流し、費目、使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費目、使途の点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業は、特命随契や企画提案プロポーザル等、委託内容毎に適切な選定方法により選定し、いずれも妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において支出関係書類により確認し適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

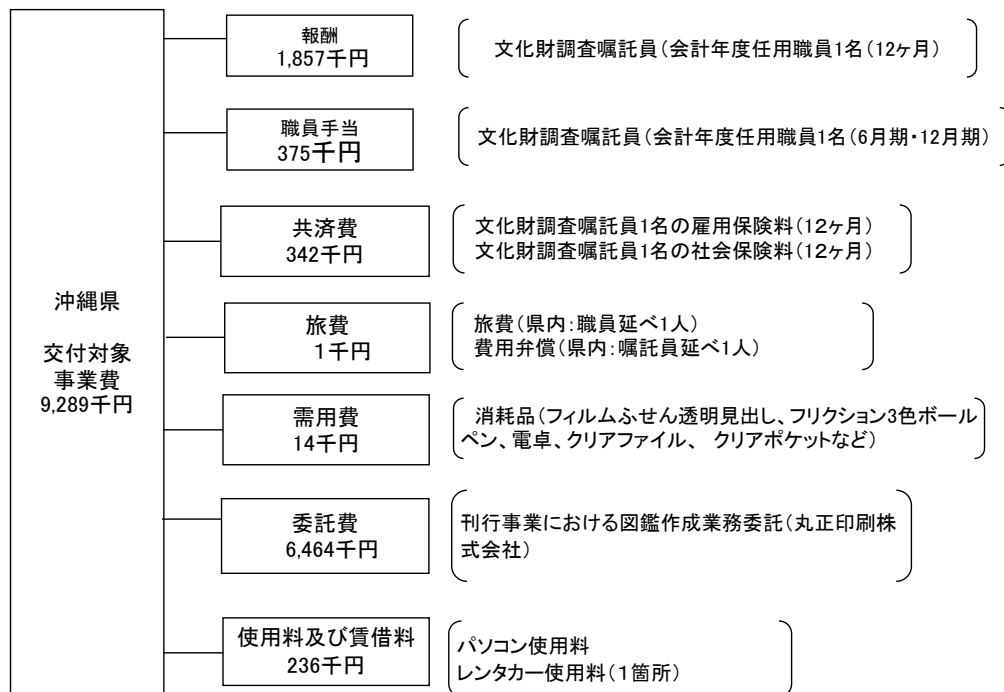
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	217	みんなの文化財図鑑刊行事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ		
担当部課名	教育庁文化財課	事業実施(予定)年度	H 26 ~ R 3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化の発信・交流 Ⅲ-3-(2)		
事業内容	「天然記念物編」の刊行						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】			R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度
	予算の状況	(a)当初予算額	15,783		9,919		9,716
		(b)予算現額	15,783		9,919		9,716
		(c)増減額(b-a)	0		0		0
		(d)前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		15,783		9,919		9,716
	B. 執行済額		15,589		9,195		9,289
	うち交付金充当額		12,471		7,356		7,431
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		98.8%		92.7%		95.6%
予算の状況の説明		・執行率は95.6%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	「天然記念物編」を刊行するため、原稿執筆を行い、原稿の校正、デザインを行う。	目標	1分野	1分野	1分野	1分野	
		実績	1分野	1分野	1分野	1分野	
	写真収集	目標	60件	31件	21件	-	
		実績	63件	46件	38件	-	
	アンケートをとった図書館数	目標	-	5館	5館	-	
実績		-	6館	3館	-		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画により刊行目標を1分野とし、目標どおり1分野の刊行をおこなった。 ・令和2年度までに必要な写真を全て収集していることから、令和3年度は写真収集を行わなかった。 ・令和3年度はコロナウイルス感染症の影響と、令和2年度の実績をふまえ、図書館でのアンケートをやめ、Googleフォームでのアンケートも実施した。 ・Googleフォームでは300件の回答を収集した。 ・アンケートにより読者の文化財図鑑の理解度を検証する。 						
成果目標(指標)及び達成状況	R3成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(〇〇年度)
	①『文化財図鑑』(天然記念物編)の刊行	目標	-	-	-	1分野	-
		実績	-	-	-	1分野	-
	②『文化財図鑑』の内容が理解しやすい内容になっているか理解度確認。	目標	-	-	80%	80%	-
		実績	-	-	97%	91%	-
	【令和元年以前の成果目標】 『文化財図鑑』(有形文化財編)の刊行	目標	-	1分野	-	-	-
		実績	-	1分野	-	-	-
	【令和2年以前の成果目標】 『文化財図鑑』(無形文化財・民俗文化財編)の刊行	目標	-	-	1分野	-	-
		実績	-	-	1分野	-	-
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度は実施計画により、目標どおり1分野(天然記念物編)の刊行をおこなった。 ②平成29年度(2019)から刊行された『みんなの文化財図鑑』全5巻の理解度を把握するためにアンケートを実施し、目標値を80%と設定した。目標値に対して「説明や用語の解説は分かりやすかった」との回答が91%となっている。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①これまでも文化財の普及書は刊行されているが、説明が専門的であることから内容が分かりづらい。そのため、義務教育修了年限である中学3年生の学力でも理解できる内容や構成を検討し、一般的な人にも分かる内容にする必要がある。</p> <p>②刊行後にアンケートを実施する際、より多くの回答を収集し、内容を検証する必要がある。</p>	<p>①児童生徒が理解できる表現を検討しつつ、より知識のある読者でも楽しめる内容・構成を検討する。</p> <p>②内容の検証については、普及書を配布した公立図書館と協力していく必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>文化財に関する正確な情報の発信とともに、さらに親しんでもらうために</p> <p>①刊行した図鑑を検証し、用語集など本文の内容を補助する記載を充実する。</p> <p>②文化財図鑑を配布した公立図書館との連携を図り、文化財図鑑を活用してもらう。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
9,289	9,289	7,431	1,858	0	0	0



資金の流 れ、費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定した。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○嘱託職員は、ハローワークをとおして行い適切に募集した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	